



## 人生はゲームである！



猛暑の8月になりましたが、皆さんお元気でしょうか。コンディション作りが難しい季節ですが、笑顔で乗り切っていきましょう(笑)。さて、表題の「人生はゲームである！」ですが、Facebook で書いたものです。内容を変えずに少しアレンジして掲載しました。Facebook で既に読んでいる方々は同じ内容になりますが、お許してください。

ここに書いている出来事以降、考え方が大きく変わりました。**正確に言えば「気がついた」や「目が覚めた」という感覚に近**

**いかかもしれません。** Facebook の中で僕の師匠からは「悟った、かな」と質問されました(笑)。そんな大袈裟なことではありません。「少しだけ『分かった』だけで、『悟った』ではないと思います。」とお答えしておきました。では、ちょっと読んでみてください！

### 【 人生はゲームである 】

昨日(6月26日)の夕方、京阪西三荘駅に到着。自転車に乗って自宅へ向かっていました。走行していると、道路上には高校生2人が自転車に乗って停車中。横をすり抜ける瞬間、突然動き出しますが、うまく避けてそのまま走ります。100円ショップの駐輪場前を走っていると、突然駐輪場から真横に自転車が飛び出てきます。これもうまく回避します。そのまま走っていると、カップルが道路の真ん中で突っ立っています。右側をすり抜けようとするとうり移動してきたのですが、なんとかかわします。

信号待ちがあり、青信号になってから走り出しますと、狭い道路を大きな車が勢いよく飛ばしてきます。停車して過ぎ去るのを待ちますが、車は次々とやってきます。この道路は本来、12時から20時までは許可された車以外は通行禁止です。思わず、「これは何かのゲームなんか～」と自然に口走っていました。

ゲーム？ そうかゲームなんだ！  
何か一瞬でわかってしまいました！！

すべてはゲーム。僕を怒らせようとして、敵キャラクターが配置され、次々と僕に迫ってきます。自転車だけでなく人生も同じで、進路を妨害し、僕の感情に火をつける。怒らせる。怒ったら僕の負け。もう1回やり直し。そのようなゲームだと思えたのです。

この「怒りのゲーム」なんですけど、ステージをクリアするにはどうすればいいのでしょうか？

これはすべてゲームなので、怒らせる設定や敵キャラクターは、全て自分自身の怒りの感情を反映させたものです。そのことが頭ではなく腹に落ちれば（心で分かれば）、ステージクリアになる。そう考えました。

実はこの日のお昼、人と面談していたのですが、約束の時間には遅れるし、遅れたことへの謝罪はないし、僕はかなりイライラしていました。そうした感情を反映して、自転車走行する僕の前に敵キャラクターが次々と現れたわけです。

子供の頃から昨日まで、「怒りのゲーム」のステージをクリアできませんでした。そして昨日、突然クリアできたのです。50年近く掛かりましたが～(笑)。今まで敵キャラクターとして僕の前に登場してくれた方々、本当にありがとうございました。謹んで御礼申し上げます！

「怒りのゲーム」はクリアできましたので、また新しいゲームをやりたいと思います。どのようなテーマであれ、その本質は「ゲーム」であると分かりましたので、50年も掛からずクリアと思います(笑)。現在は「存在意義」というゲームをプレイ中です！

## 「明治・父・アメリカ」を再読しました！



8月になると「新潮文庫の100冊」というキャンペーンを思い出します。今もやっているかどうかはわかりませんが(笑)。若い頃はいろいろな文庫本を読んでいた。中でも星新一のショートショートは大学時代に夢中になり、エンディングのどんでん返しに「あっ！」と言わされた経験があります！

さて、今回ご紹介する本は、「明治・父・アメリカ（新潮社、¥529、星新一著）」です。星新一のお父さんである星一（ほしはじめ）の伝記。大学時代に読んだモノを30年振りに再読してみたのですが、やっぱり面白い。と同時に、大学時代の脳内感覚が蘇ってきたのです。しばらく使っていなかった道具を使ってみたところ、使い方を思い出したという感覚に近いですね。

星は自らの才知と努力によって困難な状況を克服。新渡戸稲造や野口英世等、明治時代のビックネームと知り合い、交流を深めていきます。コロンビア大学に通いながら、ある家庭の使用人の仕事をしている星に対して、奥さんはこう言います。

「星、あたしは子供の時から、さまざまな使用人を見てきた。イギリス系、スコットランド系、フランス、イタリア、ポーランド、ポルトガル、中国、インドなど、いろいろな国の人を使ったことがあります。しかし、日本人はおまえがはじめてです。本当に感心しました。涙が出そうです。こんなことは、いままでになかった。日本人がこんなに誠実で有能とは知りませんでした(P161)。」外国の方にこう言ってもらえることは、同じ日本人として嬉しく誇りを感じます。今もこう有りたいたいですね！

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター編集部  
〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目2番3号 サハム天満橋 402  
TEL06-6920-3191 Email: m-okumura@1project-support.com http://www.1project-support.com  
FAX06-6920-3192 Copyright 2017 オクムラ経営コンサルティングオフィス all rights reserved

発行人 奥村政治  
発行日 2017年8月1日